

# 洋画

## 美術科 洋画コース

◆ TW テキスト作品科目
 ◆ TX テキスト特別科目
 ● S スクーリング科目
 必 必修科目
 選必 選択必修科目

※下記でご紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

### 洋画コース専門教育科目

#### STEP ①

デッサンを基本として、「見る」「描く」の基礎を身につける。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
<b>1年次</b>						
洋画演習 I-1	鉛筆デッサン「塊を描く」/ 鉛筆デッサン「私の靴」	◆TW	必	各2		デッサンから絵画へ。鉛筆デッサンでは「塊を描く」、「私の靴」の制作を通し、対象を量として捉えること、丹念に観察することを学ぶ。油彩では「自画像」、静物「野菜・果物」の制作を通し油絵具での表現に慣れる。
洋画演習 I-2	人物油彩「自画像」/ 静物油彩「野菜・果物」	◆TW	必			
洋画 I-1	鉛筆デッサン	●S	必	各1		「鉛筆デッサン、木炭デッサン」の制作を通し、形態、明暗、量感、空間、構図など、造形に必要な事柄を学ぶ。あわせて油彩に使用する画材の基礎知識や対象の捉え方について学ぶ。
洋画 I-2	木炭デッサン 1	●S	必			
洋画 I-3	木炭デッサン 2—油彩画材入門—	●S	必			
洋画 II-1	静物油彩 1	●S	必	1		デッサンに続き、油彩表現を通して「観察力」「描写力」を養う。「静物油彩 1」では三原色と白のみの使用で制作し、混色や溶き油の使い方を学ぶ。「人体油彩 1」では骨格やプロポーション、動きについてデッサンや油彩表現を通して学ぶ。
洋画 II-2	人体油彩 1	●S	必	2		

#### STEP ②

色と形から、造形表現に取り組む。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
<b>2年次</b>						
洋画演習 II-1	ドローイング「手」/ 鉛筆デッサン「囲まれた空間を描く」	◆TW	必	各2		形態や色彩の構成を学ぶ。「手」のドローイング、デッサン「囲まれた空間を描く」の制作を通し、観察描写からの造形的な広がりを経験する。油彩では、「鏡面に映る自画像と室内風景」、「建物のある風景」の制作を通し対象の観察から色や形を探ることを目指す。
洋画演習 II-2	人物油彩「鏡面に映る自画像と室内風景」/ 風景油彩「建物のある風景」	◆TW	必			
洋画 III-1	人体油彩 2—塑造と油彩	●S	必	2		「人体油彩 2—塑造と油彩」では、人体をモチーフに立体制作に取り組んだ後、油彩で制作する。「風景を描く」では現場の風景をモチーフに構図を考え、鉛筆、ペン、水彩などを用いて制作する。
洋画 III-2	風景を描く	●S	必	1		
洋画 IV-1	静物油彩 2—構成	●S	必	2		「静物油彩 2—構成」ではアクリル絵具やさまざまな素材を用いてコラージュを制作し、そこから発見を活かした表現を探る。「コンポジション」では静物をモチーフに2種類の課題を制作し、画面構成について学ぶ。
洋画 IV-2	コンポジション	●S	必	1		

## STEP③

自分の表現とは何かをつきつめていく。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
3年次						
洋画演習Ⅲ-1	自由制作Ⅰ「発想」	TW	必	各2		自由制作。それぞれの視点で油彩(アクリル絵具も可)を2点ずつ制作する。スクーリングの洋画Ⅴとあわせて、自らの興味を探り、観る側を意識した表現を学習していく。
洋画演習Ⅲ-2	自由制作Ⅱ「表現」	TW	必			
洋画Ⅴ-1	花	S	必	各2		モチーフと向き合うことで、思考と絵画表現の関係を探り、人や花をモチーフとしながらも単なる再現ではない表現を目指す。自己の制作を振り返り、自分のこだわりを展開させる。また、抽象絵画の誕生から現在までの流れ、その精神的支柱を学び、制作を行う。
洋画Ⅴ-2	人	S	必			
洋画Ⅴ-9	抽象	S	必			

## STEP④

自分の想いを絵にする。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
4年次						
洋画演習Ⅳ	テーマ研究「50号自由制作」 プレゼンテーション「ポートフォリオ」/ 「副論」	TX	必	4		第1課題のテーマ研究、第2課題のプレゼンテーションの計2課題を制作。秋のスクーリングから着手する100号の制作とあわせて、「作品をつくる行程」と「プレゼンテーション(提示)」とを学ぶ。
卒業制作		S	必	6		担当教員の指導のもとテーマを設定し、エスキースの制作を経て、100号の作品を制作する。これまでの学習によって習得した技法、育んできた自身の価値観や創造性を集大成して制作する。なぜこの絵を描くのかという、自己の内面や思いと社会との接点を意識し、表現の構築を行う。